

【記念講演】

- テーマ：「夢いっぱい・魅力いっぱい豊中！」
- 講演者：毎日放送アナウンサー 古川圭子氏

今日はシンポジウムの記念講演の講師としてお招きくださいます本当にありがとうございます。豊中出身とご紹介いただきましたが、豊中以外に住んだことがありません。ずっと豊中。しかも、阪急岡町駅から歩ける範囲で四、五回引っ越しをしてるんですが、ずっと岡町に住んでいます。

でも、私の職業はアナウンサーで、建築とか環境とかは全くの素人なんです。なぜ私がこのシンポジウムで講演なんですか、客席の皆さんのほうが景観とか都市デザインということに関してはプロの方々なのに、とてもとても恐れ多くてできませんと申し上げたんですが、ずっと豊中に住んでいる方として豊中のどこが好きかを話してほしいということでしたので、それでしたら何とか私にも務まるかなと思って今日は参りました。

先ほどの表彰式典を拝見させていただきまして、最初は景観と聞きますと、やっぱりすごく有名な方がつくった立派な建物とか一大プロジェクトでつくられた立派な新しい町とかそういうイメージだったんですけども、そうではなくて、日ごろ通っているあの道のあそこ、何かいいなと思ってたけど、実はすごく建築的にも評価が高いものなんだとか、あと活動部門で特に思ったんですが、天竺川の八坂橋、夕日丘のところのいつのころからか立派なこいのぼりが、こどもの日になると飾られて、誰が飾ってくれているのかな、こんな立派なこいのぼりが見られるのはありがたいなと思いながら通っていたんですが、ああ、あれも景観なんだなということがわかりました。

人の心が通っていない、ただのつくったものではなくて、それを建てた人、そこに住んでいる人、そこを使っている人、守っている人の心がこもっているもの、それが景観なんだということがわかりましたので、これからはちょっと気をつけて、いつも通っている道、近所にもそう言われてみればデザイン賞を受賞されたおうちもありますし、これからちょっと気をつけて町を見ていこうかなという気になることができました。

そんな素人の私でございますが、50年も豊中に住んでいるなかで、今まで見てきた豊中のいいところ、私が思ういいところについてお話をしたいと思います。

私は、ずっと岡町に住んでおりまして、岡町の商店街のアーケードがなくなって四、五軒目ぐらいのところに住んでいたんですが、学校は克明小学校であり第五中学校だったんです。わかる方にはわかると思いますが、阪急電車の踏切を渡らないと学校に行けない9年間だったんです。ですので、子どものころの私にとっての豊中のイメージで一番大きいのは、阪急電車の線路が地面を走っていた時代です。まだ小さかったので、車輪を毎日毎日見ながら過ごしていました。

今回は、その阪急電車のことと、岡町商店街の外れに住んでいましたので、岡町商店街、桜塚商店街の中心にお話をしていきたいと思います。

私が小学校へ行くには、踏切を毎日渡らなければならなくて、でも朝学校に行く時間というのはちょうど電車もラッシュの時間なんです。だから、決まった時間に家を出て8時9分までにあの踏切を渡っておかないと、そこからは急行と普通が行ったり来たりして全然踏切が開かない、特に小学校のときは集団登校でしたからよかったですけど、中学校は自由に通学できますから、友達がなかなか家から出てきてくれなかったりすると、ああ、もうこの時間にこの踏切渡れなかったら遅刻みたいな、そんな日々でした。

ですので、阪急電車が高架になる計画があるって聞いたときには、やっぱりな、車も渋滞してるし、子どもが渡るのもちょっと危ないし、そういうことなのかなということがわかりました。

その阪急電車が高架の上を走るようになるらしいという噂を最初に聞いたのが、多分小学校一、二年生のころで、昭和40年代の終わりごろだったかと思います。阪急電車が高架の上を走るようになるということだけではなく、克明小学校の校区の中にはそのために立ち退きになるご家庭が結構あったんです。キムラ君とともトシコちゃんとも何かおうちを引っ越さないといけないらしいって聞いて、子ども心にとってもショックでした。

自分が見なれているこの町並みが変わっていくんだ、今、目の前にある線路がなくなって高架の上を電車が走るようになるんだというのは、子ども心にもとても町は大きく変わることがあるんだということがわかりました。

実際に立ち退きになった友達の家のところ資材が置かれ、そのうち工事が始まり、そういうのをずっと見守ってきました。こうやって町というのは変わっていくものなんだなということを子ども心に狭い範囲で見守ってきました。

今回、是非写真があれば持ってきてくださいとのことでしたので、実家に戻っていろいろ探して持ってきました。

【写真①】



まず、【写真①】ですが、この写真は阪急の岡町駅からちょっと北側です。伊丹街道のちょっと手前がある、これを渡り克明小学校に子どもたちは通うことができた小さい踏切です。父と小さいのが多分私です。

右側の建物は今も残ってますよね。左あたりはもう建てかわってますけど、この道を毎日毎日通ってました。これを見てるだけでも、カンカンカンカンという音が聞こえてくる気がしますけど、今はその音がなくなった、風景の中の音も変わってしまいました。ただ、タキグチさんの「ほねつぎ」の看板は、この間見てきたら、写真のもので

はないですけど同じ看板はまだ残ってました。これが私にとっての岡町の阪急電車のある風景です。

トシコちゃんたちが引っ越して行って、工事が進むのを見守りながら、私はこの高架線路が完成したころにはどこの町で誰と結婚してどんな生活を送ってるんだろうとずっと思っていたんです。中学生になり、高校生になり、大学生になり、社会人になり、あれ、ずっと毎日、阪急岡町駅からまだ電車に乗っている、結婚しても、子どもができて、50歳になろうという今もやっぱり阪急岡町駅から電車に乗っています。

そんな人生になろうとは全然想像もしていなかったんですが、そうやって工事の進捗をずっと見守り、1997年に曾根駅から蛍池駅までが高架になりました。今度は、この地面から見ていた景色を毎日三、四階ぐらいの高さですか、上から豊中の町を見ながら通うようになりました。それまでは自分の目の高さでしか見えなかった町が、上から見えるようになったんです。母校である愛光幼稚園から克明小学校、後輩たちは今日も元気に走り回ってるな、そんな変わらない風景もありますし、ちょっと遠くのほうを見渡すと「あ、あの辺りマンションになったんだな」とか、「あそこ割と広い土地があいてるな」とかいろんなことが上から見えるようになりました。

そうやって50年にわたって私は知らず知らずのうちに豊中の景観の変化を観察してきたんだなと、今回改めて思っております。それが阪急電車を通じて私が感じてきたこの豊中の変化です。

次の写真が岡町の商店街でございますが、実家のアルバムを探してみますとこんな写真が出てきまして、今日お越しの皆様だったらおわかりになりますか、正確な年がわからないんですけど、【写真②】は岡町と桜塚の商店街のアーケードを全部新しくして、下の道路もタイルできれいに舗装し、完成記念式典が行われたときの写真なんです。岡町商店街に、おそらく阪急電鉄さんの音楽隊の皆さんだと思うんですけど、パレードがあって、次の【写真③】はレッツゴー三匹さんが、原田神社の境内にステージをつくって漫才をされたんです。もう子どもたちは珍しくて珍しくてすぐそばまで集まっ



【写真②】

てきています。こんな大イベントがありました。岡町にこんな有名なテレビで見ている人たちが来るなんてと大騒ぎになりました。



【写真③】

その岡町の商店街で今日も買い物をするわけですが、やっぱり魚は魚屋さんで買う、野菜は八百屋さんで買う、買い物かごを下げて通う、その感じが今もとっても好きで、なるべくスーパーではなくて、お店の人との会話が出来る商店街での買い物を楽しみたいと、そう思って岡町に住み続けています。



【写真④】

やっぱり震災に耐えられず、古いつくりでしたので、建物自体は残ったんですが、瓦が全部落ち、柱と壁の間にすき間ができてしまってもう長くは住めないということで、この岡町の家を離れて、ちょっと離れた北桜塚に引っ越すことになりました。もう本当に岡町の家を写したのはこの1枚くらいですので、とても貴重な写真となっています。

また、岡町といえば原田神社でございます。これ【写真⑤、⑥】は今年のお正月に初詣での皆さんを撮らせてもらったものなんですが、こうやって改めて見ますと本当に立派で由緒も歴史もある神社ですよね。ただ、子どもころはそんなことは全く知らずに、毎日この中の広い境内を走り回って、赤い鳥居を使って鬼ごっこ、隠れんぼをしておりました。犬を飼い出してからは、毎日犬の散歩でもお世話になりました。やっぱりこの鳥居がある商店街というのが岡町のとてもいいところだなと思います。

岡町の自治会の皆さんも原田神社の氏子として熱心に活動して、子どもころに秋のお祭りをお手伝いするとおぜんざいを振る舞ってもらえたりするのがとても楽しみだったのを覚えております。今でも毎年初詣でも伺いますし、子どもたちの百日のお参りとか七五三も全部いまだに原田神社でしていただいて

これは父が撮った写真なんですけども、肝心の上の看板が写っていないんです。毎日放送のカメラマンなら怒られるところですけど、タイトルが写り込んでいませんが、岡町商店街アーケード竣工記念何とかって書いてあります。そんなイベントがありました。

子ども心にこういうイベントとして残っているんですが、やはりそれまで見ていたちょっと古かったアーケードがきれいになって、下のタイルが舗装されてという景色が変わったのがとてもうれしかったのも覚えています。

この【写真④】は、岡町の家の前で撮った貴重な写真でございまして、今回改めて思ったんですが、自分の家とかいつも住んでいる町の写真というのはなかなか撮らないものですよね。古いアルバムを見ると旅行に行った先の写真はたくさんあるんですが、日々の生活というのは残っていないんです。最近はデジタルですので気軽に撮れますが、当時は写真もなかなか貴重でして、なぜかこの写真を父が撮っていたんです。母と私と妹でございまして、細い路地に面した家でした。

ここに震災があるまで、ずっと住んでいたんですが、今はこの家は残念ながらもうありません。



【写真上⑥、写真下⑥】

いますが、やっぱりにぎやかな商店街の中に静かな原田神社があるというこの対比が、癒やしの場所であり、心の安まる場所となっています。



【写真⑦】



【写真⑧】



【写真⑨】

豊中のいいところは本当に緑が豊かなところで、わざわざ出かけていかなくても、岡町という「ぞう公園」【写真⑦】に行けば花見も楽しめます。去年かな、一番きれいなときに撮りに行ってみました、私も滑っていた象さんがまだいます。

今住んでいるのは、【写真⑧⑨】の大曾公園の近くなんですけど、大曾公園も桜がとってもきれいですし、秋になりますとイチョウがとってもきれいです。ここには広いグラウンドがあって、小さい子が遊ぶスペースや、大人がテニスとか野球を本気でできるだけのスペースもあり、このように凧も揚げられるスペースがあるんです。こういう広い公園、またぞう公園のような小さいけれど、とても魅力的な公園、大小さまざまな公園があるというのも豊中のいいところだなと思います。

公園のいいところは、もちろん体を動かせるということもあるんですが、そこにしょっちゅう行くことで人との交流が生まれるということです。原田神社に遊びに行ってる時も、いつもそこにお散歩に来られているよそのおじいちゃん、おばあちゃんと仲よくなったりとか、子どもを連れて公園に行くと親同士の交流が生まれたりとか、そういう自然に交流の場になるということも、こういう緑豊かな公園が多いといういいところだなと思います。

このあたりが、なぜ私が豊中に住んでいるか、気軽に買い物ができて、緑が豊かなところがたくさんある、何よりも交通がとっても便利、阪急電車があり、新大阪も近く、空港も近い、いろいろないいところがあるわけですが、皆さんそれぞれにここがいいと思って豊中に住んでらっしゃる理由なのかなと思うんです。

今日のパンフレットで、第1回豊中まちなみ市民賞の作品を見せていただいても、もう知っているところがいっぱい出てきてますが、改めてこうやって写真に撮って見てみると本当にいいところだなと思いますよね。

でも、私が知っていても、もしかしたら他の人は知らないかもしれない、自分がいいなと思った景色、景観について、いいなと思って終わるのではなくて、人にちょっと言ってみる、人から聞いたら何でそこはそういうふうになってるんだろう、誰がこれを守ってくれてるんだろう、ということ調べてみるといろんなことがわかってきて、よりその景観が好きになるということもありそうな気がしました。

私も、原田神社についてはただただ近所に最初からある神社で走り回っていましたが、例えば「広報とよなか」にちょっと原田神社の特集が出ていて、歴史について改めて、ああすごく建築物

としても価値があるものだなとわかるだけで、より好きになることもあります。

是非、豊中市の皆さんにはこれからも、こんなに豊中のいいところがたくさんあるので、いろんな形で今日のようなシンポジウムとか式典でもいいですし、広報を通じてでもいいので知らせていただけたら、私たちも実際にそこに足を運んでみたいなというふうに思いました。

せっかく私もアナウンサーという皆さんにいろんな情報を発信する仕事をしていますので、これからももっといろんないいなと思ったところ、聞いたところに出かけて行って、実際に自分でそのよさを感じて、自分から発信していければいいなというふうに感じています。

よし、これからも豊中に住んでよかったな、豊中に住んでみたいな、豊中に行ってみたいなと思う人が増えるようになってくれたらいいなと今日のこの式典を通じて感じました。どうもありがとうございました。